



自分で考え、自分で工夫し、自分で動く

子どもを育む 水辺の 自然体験

水辺は“学び”がいっぱい
感動を知識に変えるコツ

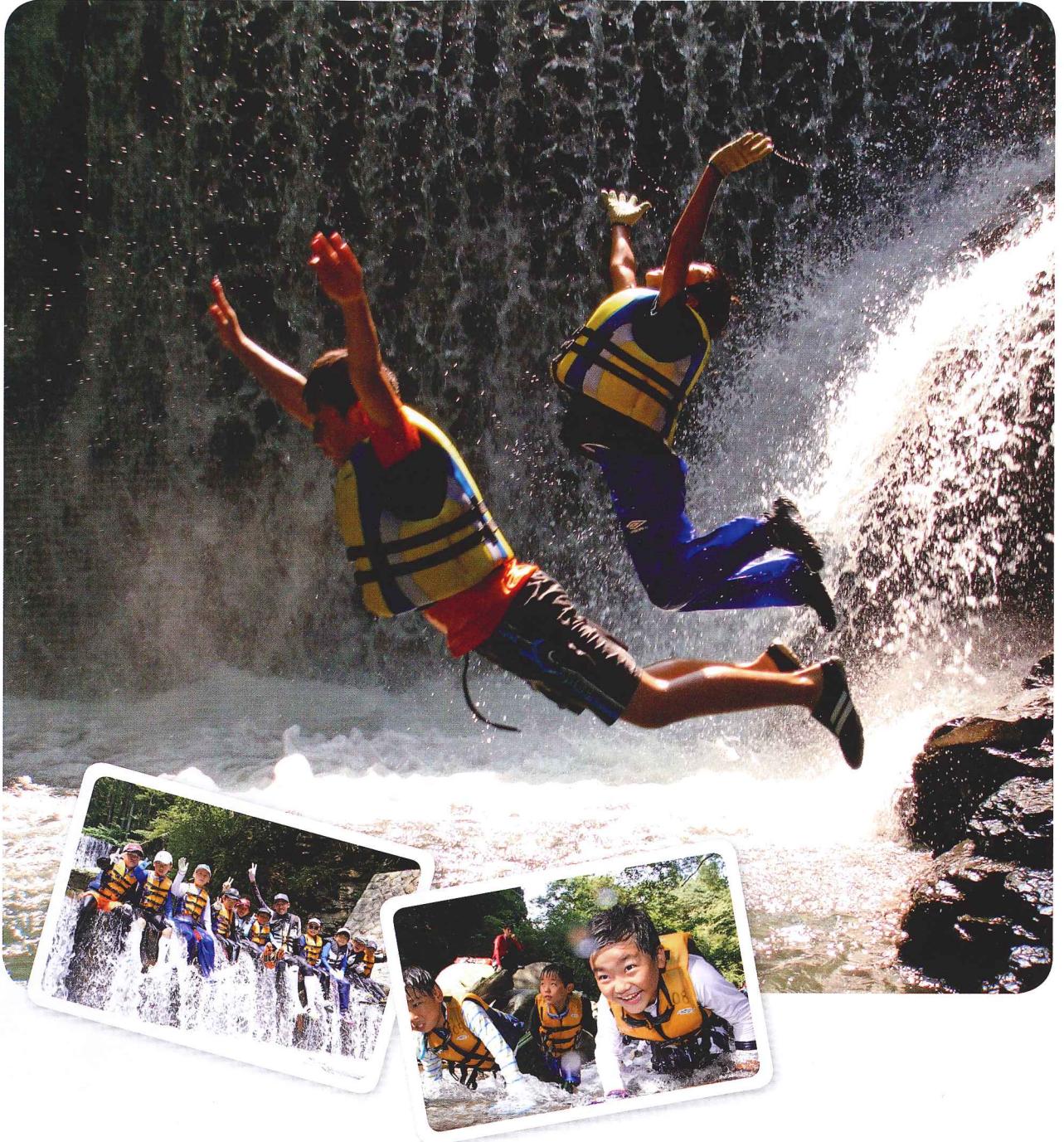
花まる学習会 箕浦健治先生伝授！
親と子の本気で遊ぶ十ヶ条

魚探求図鑑

親子で考えてみよう
海と子どもの未来のために
今、私たちができること

日本さかな検定って知っている？
「ととけん」にチャレンジしよう！





自然体験が育む 「体験」「生きる力」

と
は

独創的な指導方法で知られる学習塾、花まる学習会。学習塾でありながら指導の柱のひとつとして野外体験を掲げており、会員の4割が入会動機を「サマースクールに参加したいから」と話すほど。野外体験部部長として多くの子どもを指導してきた箕浦健治さんに、子どもに変化をもたらす花まる式野外体験と、見守る大人の方について語ってもらった。

A portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a light-colored suit jacket, a white shirt, and a patterned purple and blue tie. He is looking slightly to his right with a neutral expression.

花まる学習会 野外体験部 部長として、延べ7万人の子どもと野外体験を行い、ファイバーの愛称で子どもと保護者から絶大な人気を集める。著書に「4歳～9歳で生きる基礎力が決まる！ 花まる学習会式 1人でできる子の育て方」(日本実業出版社)などがある。

花まるの野外体験のルールは「兄弟姉妹、友達同士での参加はNG。チームは学年縦割り」。社会に出たら、知らない人の中で自分の居場所を作らなければいけませんし、自分にぴったりの職場も、都合のいい上司や部下もいません。だからこそ、子どもの時から他人とどう関わるかを学んではお互いに助け合うことが必要。新しく人間関係を築くことを学んだ子ども

また、自然の中では常にイレギュラーなことが起こり、その状況をどうプラスに持っていくかが試されます。特に水辺は「生きものに触る」「水に飛び込む」など、日常ではなかなか体験することができないけれど、少し勇気を出せば越えられるハードルがたくさんあり、子どもの意欲や思考力を高めるには最適な場所です。友達の姿を見て「自分もできるようになりたい」とチャレンジし、できると自信がつく。するとまたチャレンジしたくなる。水辺に行くだけでも子どもにとっては刺激的なのに、たくさんの子どもが参加するプログラムに参加すること

自然の中で感じる疑問が
学びの土台づくりに

で、育まれる力もあるのです。

（つづき） 子どものベースを大事にしてあげること。一回の自然体験ですぐに成長する子もいれば、何回目かで変化が見える子もいます。なかなか一步を踏み出せなくとも「やろう」という気持ちが芽生えれば、自分のタイミングでできるようになります。

もうひとつは、ポジティブな言葉をかけてあげること。何度も言いますが、自然は思うようになりません。だから試行錯誤するおもしろさがあるのです。失敗しても、責めないでください。その失敗をプラスに変える思考力を養うチャンスです。お父さん、お母さんのポジティブな言葉には、それだけの力があります。

野外での自然体験では、普段見過ごしていることでも、「何でカニは横に歩くの?」「なんで月の形が変わるもの?」など、さまざま疑問となって子どもから溢れ出てきます。そこで「知るって楽しい!」と感じられれば「もっと知りたい!」と意欲が高まり、学びの土台づくりにつながります。特に4～9歳は人生の土台をつくる大切な時期。自然体験を通して経験の総量を増やし、生きる力を育んであげたいですね。

野外体験で目指すのは
「メシが食える大人」

成長していくます。

花まる学習会の設立は、代表の高瀬正伸が「子どもに野外での自然体験をさせてあげたい」と思ったことがきっかけです。以来、私たちは通常の学習塾とは違い、野外活動のさまざな体験プログラムを通じて子どもたちを「メシが見える大人」「魅力的な人」に育てることを理念としています。野外では同じ場所でも季節や天候によって環境や景色が変化します。どこが安全でどこが危険なのか、どんなところにどんな生きものがいるのか…

劇的な変化が生まれる

本気で遊ぶ十ヶ条



花まる学習会

数理的思考力、読書と作文を中心とした国語力、野外体験を三本柱とした指導を行なう学習塾。日本各地に教室があり、「メシが見える大人」「魅力的な人」を育てることを理念としている。野外体験プログラムは会員のみが参加できる。
www.hanamarugroup.jp/hanamaru/



四三二一

自然は思うようにならない

実体験が“遊び”的意欲を芽生えさせる

子どもには頑張れば届く目標を

親が見本を見せるべし

ただし先回りはしない

子にも親にもタイミングがある

失敗してもかまわない

プラスに見える言葉がけを

子どもの体験を否定しない

最初にルールを決めておく



野外には危険もある。最初に「ここから先には行かない」「石は投げない」などのルールを決めて、子どもに伝えておこう。後から「これはダメ」というより、最初にルールを伝えておくほうが子どもも納得しやすい。

自然の中での体験を子どもは親に話したがるはず。その際、些細なことであっても子どもの体験を否定しないこと。行ってよかった、学べてよかったですと思わせることが大切。「よかったね」と子どもが思える言葉がけをしよう。

「雨に降られた」など一見ネガティブに思えることも「雨が降ったから虹が見られた!」と考え方ひとつでポジティブに変換できる。「結果的にこの経験をしてよかった」と子どもが思えることを子どもに伝えたい。

自己肯定感の低い子は失敗を恐れがち。自然の中では失敗を責めず、子どもが本気で取り組んだことを褒めてあげよう。「失敗してもいい。大切なのは本気でやること」ということを子どもに伝えたい。

初めての自然体験で成長を見せる子もいれば、何度もかで変化する子もいる。それは親も同じこと。自然体験は1回だけでなく、何度も体験することが大事。親も子も自分のペースで変化していく。

「この遊びをしなさい」

「この道具で遊びなさい」と親が先回りして決めてしまうと、子どもは自分で考えることができなくなってしまう。自分の意思を持ってやりたいと思えるような余白をつくっておこう。

子どもは、親の姿をよく見ている。親が心から楽しんでいることに興味を持ち、自分もやろうとするのだ。だから、親も本気になろう! 親が自然中では小さい挑戦を繰り返しさせよう。そうすれば挑戦することを楽しむようになる。

子どもは「ちょっと手を伸ばせばできる」と興味を示すもの。挑戦して目標に到達できれば新たな意欲が湧く。自然の感覚を実際に味わうことができる。心と身体で感じることで五感が磨かれ、遊びの意欲が芽生える。

子どもの学びは実体験こそ大切にしよう。例えば、水辺では流れる水の強さ、冷たさ、深みにハマった時の自然をしっかり観察して危険を察知し、行動することが大切。その経験が自信となり、子どもの生命力が磨かれていく。